

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

|       |   |                               |                                      |
|-------|---|-------------------------------|--------------------------------------|
| 課題番号  | 22H05004                                | 研究期間                          | 令和4(2022)年度～<br>令和8(2026)年度          |
| 研究課題名 | 第三世代静止気象衛星群による全球高頻度観測は陸域生態環境理解に何をもたらすか？ | 研究代表者<br>(所属・職)<br>(令和6年3月現在) | 市井 和仁<br>(千葉大学・環境リモートセンシング研究センター・教授) |

【令和6(2024)年度 中間評価結果】

| 評価   |    | 評価基準  |
|--|----|---|
| ○  | A+ | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                          |
|  | A  | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる                           |
|  | A- | 一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる |
|  | B  | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                                |
|  | C  | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である              |
| <p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、第三世代静止気象衛星群を用いた国際観測ネットワークを構築し、これまでよりも飛躍的に高い時間分解能で陸域生態系の動態を解明するとともに、得られた知見を陸域生態系モデルに反映することで、陸域生態系炭素収支のモデリングを行うことを目指している。</p>   |    |   |
| <p>(意見等)</p> <p>従来、雲の存在により精密なデータが得られなかった熱帯域において、時間解像度の高い NDVI（正規化植生指数）推定を達成したことは学術的意義の高い成果である。投稿中も含め論文も積極的に作成されており、これらの成果が評価された結果として、研究代表者がリモートセンシングの分野を代表する国際学術誌の特集のゲストエディターを務めることになったことは特筆すべきことである。以上のとおり、研究成果そのものに加え波及的な成果も上げつつあることを踏まえ、本研究は想定を超える進展があると評価する。</p> |    |   |